１０月所感

「どうしたらできるか」～　目的に向かっていく努力

狭山市立教育センター
所長　　鈴木　浩明

日本人の発明家は多くいらっしゃいますが、「日本の十大発明家」（特許庁選出、1985年）によりますと、

① 豊田佐吉（織物の機械）
② 御木本幸吉（養殖真珠）
③ 高峰譲吉（タカジアスターゼ、アドレナリン）
④ 池田菊苗（グルタミン酸ナトリウム）
⑤ 鈴木梅太郎（ビタミンB1、ビタミンA）
⑥ 杉本京太（邦文タイプライター）
⑦ 本多光太郎（KS鋼、新KS鋼）
⑧ 八木秀次（八木・宇田アンテナ）
⑨ 丹羽保次郎（NE式写真電送機）
⑩ 三島徳七（MK鋼）

の10名の方があげられています。皆さんの名前と業績がおわかりでしょうか。

このように、日本の発明家として、たくさんの方がおられます。最近ですと、世紀の大発明と言われている青色発行ダイオードの発明で２０１４年にノーベル物理学賞を受賞した中村修二さんがおられますが、自著の中でご自身の経験を次のように語られています。

会社員時代にまだ発明されていなかった特殊な青色発光ダイオードの開発をしたいと社長にお願いし、会社から約3億円の開発費用をいただきました。その後、研究に使う機械を作る勉強をするため、フロリダ大学に1年間留学し、日本に戻ってから、研究の装置の改造にとりかかりますが、会社から研究の取りやめを求められます。その後、窒化ガリウムの結晶をさくせいする新しい機械を発明し、青色発光ダイオードの発明につながっていくのです。

中村さんは、自分の専門外の仕事から独学に近い状態で研究し、部品の調達から研究機材の作成までされ、最終的には、赤色・青色ダイオードの発明をされたのです。

中村さんは、人生で一番大切なキーワードとして「できない理由を探すな。どうしたらできるかを考えろ」をあげておられます。私たちは、いろいろな壁にぶつかると、壁を乗り越えようと努力し、それでも上手くいかないときには、「〇〇がないからできない」とできない理由を探してしまうことがあります。

しかし、中村さんは、「〇〇がないからできない」ではなく、「自分のやりたいことは〇〇だ。そのためには、〇〇が必要だ」だから〇〇しようという前向きな姿勢で、自分で決めた目的に向かっていきました。その努力の結果が、新しい発明につながっていったのだと思います。

みなさんの夢がたとえどんなに大きな夢であっても、思いを強く持ち、その夢を叶えるためには何が必要で、今何をするべきなのかをしっかりと考え、行動にうつし自らの道を歩んで欲しいものです。　　中村修二『考える力、やり抜く力　私の方法』